

**■白山神社 2021-0325**

晴れてるので、津高入口の温羅の首塚、首部こうべの白山神社へ。ともかく、弥生墳丘墓があってもいい立地だな。地名は伝承されてるかもな。確率 5%。

**■紀ノ國古墳図鑑パイロット版としてホームページ公開。2021-0325**

<https://shijituganok.memo.wiki/d/%b5%c8%c8%f7%a4%ce%b8%c5%ca%af%c3%b5%cb%ac>

引き続き、資治通鑑翻訳は進めていて、明日は第 9 7 巻を公開予定。

淡輪古墳のできたいきさつは日本書紀にあります。吉備上通采女大海が頼んだと。

<https://image01.seesaawiki.jp/.../shijitug.../o3kBgLP6Hi.pdf>

奈良女子大学前方後円墳データベースでねのがあるね。Google マップ上で要するに「前方後円墳集成」が見える。データは古いが、大体は使える。

■和歌山も岩橋千塚しか知らなかったが、その北西の山には前期古墳が 9 つもあり、中には鏡も出ている。吉備の牛窓の海部と一緒に朝鮮半島に出掛けていただろうな。岩橋千塚はその後の時代。

発掘論文を読んで、牛窓の鹿歩山古墳とサイズも作り方も似ているのが 2 つはあるなあ。そりゃ、技術は交流していたはず。なんせ星川皇子の反乱では稚媛と一緒に紀岡前久米がやけしんでる。岩橋千塚したの岡前だよ。

■和歌山電鉄方面の古墳図鑑にチャレンジ。なんせ 30 年前に毎月和歌山市中央卸売市場やオークワに営業に行くついでに、岩橋千塚を一度訪ねただけ。南海本線の岬町には淡輪古墳群があり、雄略時代に紀小弓が葬られたはず、てのは妻の吉備大海媛が埋葬場所を探してくれと泣きついた事は小説にも書いたのだが、残念ながら行ったことはない。

Google マップで調べて、まず大阪がわの淡輪ニサンザイ古墳、宇土墓を描いたが、2014 年に宮内庁書陵部が発掘し測量し、推定設計図も描いている。南側の作り出しが丁寧に 2 段で築いていて、陪葬があるかも。後円部に 6 基の陪塚が現存するが、そのうち二基は方墳かもな。だとしたら実に操山の金蔵山に似ている。二重周濠かもしれないと書いてあるが、図面読み解くと難しいかもな。

**■吉備古墳図鑑配達 2021-0313**

吉備古墳図鑑を造山古墳ビジターセンターに配達、200 枚置かせてもらいました。造山古墳蘇生会の定廣会長と爆論していたら、コフニストの和気さん登場。造山古墳のバスタオルとか、枕とか、立体地図を元に作ろうとか。帰りに江崎古墳だけ、車止めて自転車で訪問したら、雨が！慌てて退散。緑山は次回。

**■吉備古墳制作 2021-0312**

吉備古墳図鑑、印刷チラシ 2000 枚作製した。ついでにクリアファイルも試作！チラシは遺跡の近くの施設に配るかな。禁酒会館の下には置いておきました。クリアファイルは販売しますかね。

■古墳図鑑が手がかりで、歩いてくれる人が増えれば、道も綺麗に出来てくる。ありがたい。また山が荒れないような仕組みもつくりたいね。昨年秋からの自転車行で、車と違ってゆったりと自然や景色や町並みを見て走ると、様々なものが見えてくる。車では見えない世界だ。

### ■自転車古墳探査 2021-0307

今日は京橋朝市のあと、天気もいいし、気温はほどほどだし、体調もいいので自転車で古墳めぐり。走行は35.1km、約4時間半。吉備線備中高松の小盛山古墳と佐古田堂山古墳、それと大崎西1号墳。大崎には苦労したなあ。和氣さんが地図を作った、北のお遍路コースのようにはいかないね。

前期古墳は、横穴式石室が無いし、山が荒れている場合が多い。「山に柴狩り」には行かなくなったからねえ。今日の場所も、田んぼが荒れて、上の池も涸れて、山道も地図にはあるが、ほとんど誰も行かないらしい。地元の人に聞いたら、「道なんか無い」と最初は言われたね。

古墳図鑑に画いた物の、観光的に行けるかどうかを検証しているわけだよ。実は古墳図鑑掲載の古墳のリストを作って「到達困難」なんて書かないと行けないからね。電車バスで気楽に行ける前期古墳がどれほどあるか、調査しているわけ。

なお古墳図鑑、とりあえずチラシ2000枚とクリアファイル50枚を発注した。イラストレーターの入稿、チラシは堀脇さんにpdfでお願いしたが、クリアファイルはIllustratorでネット発注、なんせ「レイア」がよく分かってなくて、突っ返されて、ようやく2回目には「カラーレイア」を作成できて、お目こぼしで入稿終了。近重さんがIllustratorをワード代わりに遣っている意味も、ようやく理解できたよ。

### ■吉備の古墳探訪 2021-0313

ここんところ、体力増進も兼ねて、連日古墳に登頂してきたが、スマホで登頂動画も撮ってきた。「資治通鑑」のホームページに「吉備古墳の探訪」のページを増設し、古墳に登るシリーズを纏めて掲載。古墳そのものの解説はかまどねこさんのページなども参考にさせていただければ、リサーチ出来る。

<http://kamadoneco.blog122.fc2.com/>

ネット検索すると、結構いろんな方がブログで写真を載っている。

中国地方の古墳一覧

<http://go29.boy.jp/kofun/chugoku/>

吉備古墳図鑑とともにお試し下さい。

<https://shijituganok.memo.wiki/d/%b5%c8%c8%f7%a4%ce%b8%c5%ca%af%c3%b5%cb%ac>

### ■宍甘山王山古墳探訪 2021-0212

岡山市東区宍甘の山王山古墳、全長68mは前方部がバチ型に開く初期の前方後円墳だ。都月型特殊器台型埴輪が出ているのかな。

ほぼ同時期の湯迫車塚古墳は見通せる位置にある。目の前には新幹線のトンネルがあり、鉄ファンには絶好の撮影スポットが近い。山陽線の東岡山駅も真下だ。南を見ると、古墳時代には海が下まで入り込んでいたはずだし、見島が望見でき、海の監視所でもあったはずだ。

吉備邪馬台国東遷説では、ここから見下ろす高島に、神武東征の高島の宮があったと想定する。

■宍甘山王山の前方部正面に、陪塚風の地形があったので、今回確認に行ったのが本音でしたが、2つあるように見えました。特に二つ目は頂上が盗掘されている雰囲気。実際はどうなんですかね、現地探査の経験が少ないので、円墳やら方墳やら、見当も付かない、勉強中です。前方部に接するように大股で8歩に1基、2基目は前方部から28歩の位置でした。直径は20歩。(前方部側に径約15.5mと約11mの

小型円墳)

### ■牛窓古墳探訪 2021-0210

二月の晴れの日、古墳日より。牛窓方面へ、築山、金鶏塚、鹿歩山、二つ塚、牛窓天神山、と。ちょっと木を切れば、絶景が広がる、天神山、鹿歩山！

### ■半田山古墳探訪 都月七つくろ 2021-0207

晴れの日3日目、自転車で近所のはんだやま、尾治針名真若比咩神社から、都月坂1号2号と、七つクロ古墳群へ。半田山は、もと針田山だったと縁起にある。神社の背後地には都月3号墓という小さな前方後円墳があるとは、なんか知ってたが、神社との関係から言えば、もっとでかいのではないかな。見張らしも抜群だし。七つクロは間違ってたかなかなかどり着けなかったが、幹線道路のすぐ上だね。

### ■吉備古墳図鑑 2021-0206

なかなかクッキリと色を出すのが難しかったが、毎日スキャン変更や写真調整をしてみて、ようやくまあまあのところまでできた。「造山」「作山」「両宮山」のみは、活字を植えてみたが、やはり手作りの味の方がいいかなと、全部活字を植えるのは取り止め。もともと手書きで文字を書かない方が綺麗ではあったが、また一から書き直すのも大変だ。画くのに約2週間、70時間はかかっているからなあ。

■続いて総社市下原の伊与部山弥生墳丘墓。抜群の眺望！真備水害の時に爆発した工場の上。

■晴天2日目、真備の川辺の天狗山古墳

### ■真備古墳探訪 2021-0205

今日の古墳巡りは、吉備真備公園に車を置いて、箭田大塚古墳、竜王塚古墳、二万大塚古墳、勝負砂古墳とまわり、天狗塚古墳まで登る体力なく、断念。箭田ではコフニストの和気さんが激励に来てくれて、道端で立ち話。

3時からはずいぶん笠岡の長福寺裏山古墳群を訪問。尾根が綺麗に整備されていて、人も居ないので、自転車でよじ登り、30分ほどでぐるり。歩いたら2時間はかかるが、いい公園になってる。ここは5世紀以降の古墳群だが、雄略あたりから急に栄えたみたいだね。

今日の古墳は全部初めてばかり。実に岡山古墳は今まで回ってないよね。それでよくぞ本まで書いたもの。

だけど井上靖が小説「敦煌」を書いたとき、行ったはずはないものな。見りゃいいてもんでもなかろう。一応雄略時代の小説の取材だからね。

■二万大塚、確かに石室と思われるところ、土嚢の痕跡でわかりましたよ。ただきれいに墳形が残っている。特に今回、天狗塚、箭田大塚、二万大塚ともに、墳丘がくっきりしていたり、周庭帯や周濠が明瞭。

### ■吉備古墳図鑑 2021-0126

1月16日から描き始めて、大小157個、まずは試行錯誤しながら達成！

多少は修正テープも使ったし、間違いもあるが、吉備の古墳巡りのツールにはなるだろう。

さて、まずはクリアファイルにしよう。A4の2枚に分割するかな。

■折角造山古墳にビジターセンターが出来たのに、コンテンツ不足ですよ。しゃあないからに自分で出来ることはしておくという意味ですが、もっと旨い奴らに参画して貰いたいですね。

■あと1日くらいで、完成かな！岡山県南には結構40m級の前方後円墳があるなあ。いま描いたなかには、前方部がバチ型に開く初期古墳が17もあるよ

■埋め尽くすにはかなり数が必要。だけど増えてくると壮観。円形部分が大きいと、ボリューム感あるよ。ただし配置は大変で、何回もずらすことがある。

またなるべく新しい発掘調査報告書、墳丘調査を探すのだが、すべてネットにあるわけではない。一冊ダウンロードして500pくらいのをざっとめを通すと1時間くらいはかかるし、つい読み込んでしまう。ま、楽しいけれど。

■あと一息まできた。あと30くらいの小さい古墳を描く。前方後円墳はなるべく描き、後期の円墳も20m以上は描こうかと。スキャンしてデータにして、色の調整を試みたが、まあなんとか印刷データには出来そうだ。まずは200枚とかクリアファイルにしてみますよ。

■操山古墳群などは、前期古墳に絞って描きます。だから後期古墳は代表的なものしか描かない。巨石墳といわれる古墳は、石室全長を赤で入れた。また楯築などの巨大弥生墳丘墓はFと表示したよ。

■宿寺山はかなりでかいし、佐古田堂山や小盛山もでかいなあ！特に今回は周庭帯をかなり丁寧に描いてみたが、墓域はこの45年で随分明らかになってきている。

#### ■鳥取西高塚古墳探訪 2021-0121

今日は赤磐市の旧赤坂町の部分を描くので、鳥取上高塚古墳を見学してきた。

旧山陽町の山陽団地は、昭和40年代に岡山県が大開発。40基もの古墳が破壊され、一部は保存された。この過程で弥生末期の集落遺跡の事例が明らかになり、弥生墳丘墓と古墳の共存も知られた。

僕が大学に入った昭和48年、山陰では四隅突出墓が発見されたのを、たまたま受けた教養課程での黛さんの講義で聞いた。

その頃神田の古本屋で見つけたのが、山陽団地の発掘報告書、1971年の便木山、1975年の用木古墳群だ。この報告書では、用木3号墳は前方後方墳とされているが、今は前方後円墳とされているんだなあ、改めて報告書を読んでみた。

次に都月坂1号墳を調べていたら、2018年の歴史博物館の論集に春成さんが向木見型特殊器台の分析論文があるのを見つけ、読んでる。便木山でも特殊器台がでてると気がついた。春成さんは特殊器台の発見の歴史を丁寧に語られ、特に高橋護少年が初めて特殊器台を見つけ、明治大学考古学教室の同人誌で発表した記事を添付している。

この時期、高橋さん、岡大の近藤義郎さん、倉敷考古館の間壁さんが競うように特殊器台を発掘している。

実は、当時から考古学会はややこしそうだから近づかなかったのだが、適度な距離感で見てきた積もりだ。

★(岡嶋)用木3号墳は、前方後方墳です。調査後消滅しましたので墳形は変更不可と思います。前方後円墳は、用木6号墳で現状保存されています。

■報告書には前方後方墳で、前方後円墳集成には前方後円墳となっていて、葛原・宇垣さんが「調査歴」として「報告書では前方後方墳とするが、前方後円墳と考えられる」としてあり、それを受けてか、吉備

人出版の「吉備の古墳上」でも前方後円墳としてある。

当時は緊急調査で、葺石の分布図は残っているが、確たる墳端調査は出来ていないのかな。葺石の分布を見ると、前方後円墳ぽいが、なんせ現物は消滅しているからねえ、確認のしようがない。

「用木古墳群」の報告書には、当時中国自動車道の工事が始まって、県の調査員が足りなくなり、山陽町単独になったり、列島改造で全ての価格が暴騰したり、遺物の東南にあったり、てんてこまいしているんだよね、ちゃんと報告書に書いてある。当時の関係者として春成岡大助手なんてみえる。

この報告書の1975年には、僕は東大の考古学特殊講義、甘粕健講師を受講し始めている時期で、きっちり3号墳は詳細に前方後円墳として描いていたんだよね。それが変わってるからびっくりしたわけですよ。

津倉古墳を描くのに、岡大の報告書を見つけた。

### ■中山車山を画く 2021-0120

今日は中山茶白山古墳と尾上車山古墳を描いた。中山は宮内庁書陵部の測量が紀要に載ってるらしいと、Wikipediaで書いてある。

「吉備邪馬台国東遷説」の執筆では、入院中だったので、かなりWikipediaに助けられたが、世の中には随分研究熱心で根気があり、しかもお金目当てでない奇人な人がいるなど、感心する。

自分が得た知識は、できる限り公開して、みんなに使って欲しいと思う。もう、著作権等と主張する時代は終わるだろうな。オープンデータ、オープンソースの時代だ。

■今回は久しぶりに様々読み込んでみているが、あらためて箸墓類型の、バチ型に開いた前方部の古墳が、意外に多いことに気がつく。

また牛窓の鹿歩山古墳と須恵の築山古墳は周濠をきちんと作っていて日本書紀に登場する「吉備海部直」の勢力を彷彿とさせる。

■寒いから引きこもって、今日は吉備の古墳図に没頭。あちこちデータを拾うんだが、どの数字を使うかに悩む。古墳の大きさはきちんと発掘しないと、確定は出来ない。

作山古墳の測量図をあらためてじっくり見るに、南と東の削り残しの丘、周堤の不完全、また円丘部の変形など、完全に作りきらず、慌てて完成させて埴輪を並べたという感じがする。

日本書紀の吉備反乱伝承の前津屋の墓だとの意を強くした。

吉備古墳図も、まずはデカイやつを並べて、配置を大まかに決める。小さい古墳をどこに入れるか考えながらの作業なので、意外にここまでが難しい。

■冬でも天気がよくて、暖かい日は、古墳日より。今日はクルマで瀬戸内市に出掛け、華光寺山古墳と新庄天神山古墳を探訪。前期の細長い前方部を持つ前方後円墳と円墳。(1/15)

■この日のために、前方後円墳集成中国四国編を買ってる！1991年発行なんだなあ、20000円したんだ。ただその後の発掘はフォロー仕切れてはいない。岡嶋さんよろしく。

■赤磐の小山古墳、赤いデジタル地図をちょっとみただけで、53mはありえないなとみたら、赤磐市は67mにしてみました。デジタルの威力はすごいね。廻り山古墳や朱千駄もかなり変形が凄いが、ある程度予測できるから、少し独自に計算してみて作図しました。

■50年ぶりに、岡山の古墳を1/500で描いてみる。まずは先日訪ねた「金蔵山古墳」だが、陪塚も表現。

## ■「資治通鑑」年表と地図の公開 2021-0112

「資治通鑑」翻訳は 101 巻から 144 巻まで概略終了しているが、元々は翻訳はついでで、年表作って小説のネタにするのが目的であった、あくまで取材の一環なのだが、2018 年 8 月から 2 年半もかかってしまった。

年表の URL <https://image01.seesaawiki.jp/.../shijitug.../TuNJ9k5NtO.pdf>

さて、小説にするのに、舞台はほとんど行ったことのない地域ばかり。そこで地名のイメージを湧かせるために、GoogleEarth を駆使して、中国の地形を視るのが日課になっている。

だが古代の地名を現代地名にするには、大変な手間がかかる。地名というものは権力者が頻繁に変えるものだから、昔と同じ地名は「敦煌」と「洛陽」くらいしか無いぐらいだ。そこで戦前の翻訳の地名からネット検索、幸いにも wikipedia で県まで検索できることが多い。それでもダメなら、中国語の Wikipedia を使う。そこから現代の行政区画を割り出して表にする。

その現代地名を GoogleEarth に貼り付けると大概は一発で現地に飛ぶことが出来る。やった事無い人は、まあ一度やってみてください。GoogleEarth には結構現地の写真が貼り付けてあって、色々観光的な遊びもできる。さらに現代地名をネット検索して、現地のホームページを探すと色々出てくる。大都市なら日本語のホームページもある。

現代地名のリスト URL <https://image01.seesaawiki.jp/.../shijitug.../aRwMbXLCX5.pdf>

写真は苻恪が流された「西海郡」の治所の現在の遺跡、また山東半島の付け根にある済南市の北の華山を 3D で表示した写真。現地に行かなくても、そこからどんな景色が見えるのか、調べることが出来る。たまたま古本で見つけた「周辺領域からみた秦漢帝国」、2 冊で定価 1 万円のところ、70%ほど。まだ出て 2 年、しかもいま調べてるシルクロードの故城がわんさか出てくるし、GoogleEarth やら GIS や CORONA 衛星画像を使って遺跡を調べる方法等も書いている。

さて、苻恪が 380 年に反乱を起こして流された西海郡の治所の場所も見つかっている。青海省海北チベット族自治州海晏県。青海から一山越えた山の中だが、シルクロードの南で、当時も草原の道から迂回して倭国までの道はあっただろう。

## ■「周辺領域からみた秦漢帝国」 2011-0111

たまたま古本で見つけた「周辺領域からみた秦漢帝国」、2 冊で定価 1 万円のところ、70%ほど。まだ出て 2 年、しかもいま調べてるシルクロードの故城がわんさか出てくるし、GoogleEarth やら GIS や CORONA 衛星画像を使って遺跡を調べる方法等も書いている。

さて、苻恪が 380 年に反乱を起こして流された西海郡の治所の場所も見つかっている。青海省海北チベット族自治州海晏県。青海から一山越えた山の中だが、シルクロードの南で、当時も草原の道から迂回して倭国までの道はあっただろう。

## ■古代の三角関係 2021-0110

いやはや、昨年 1300 年をむかえた日本書紀を久しぶに顕彰してるが、時の権力者に命令されたとは言うものの、神功皇后紀などはずいぶん苦勞してるな。新羅のミシキンで皇子が逃げ帰る記事は 418 年で、すぐ次は魏志倭人伝の卑弥呼の記事を流用、これは 238 年あたりで、そのすぐ次は百済との交流開始で 365 年位かな、まあ無理してるよな。真に受けたら大変だが、しかし神功皇后の時代にはすくなくとも倭



国が半島の政治に関与したのは間違いない。

ちなみに、僕は神功皇后は応神天皇とパートナーになってたと思う。で武内宿禰とはひょっとしたら三角関係かも。

■日本書紀編纂者自身が、神武天皇以後は暦により記録がある建前にしているね。それ以前は暦で証明できない伝承としてるわけだ。だから天照や須佐王を史実とする議論には僕は参画しない。

逆に神武以降も神功皇后のようにあちこちから持ってきてる。ただ、応神そのものは居たと「仮説」として考えて研究している。あくまで仮説です。見たわけじゃないからね、自信なんてないけど。歴史研究では、「見てきたような嘘は言わない」と。難しいが。

### ■神宮寺古墳など探訪 2020-1228

昨日は神宮寺古墳の前に、京山の津倉古墳も見てきた。全長は 28m の前方後方墳。墓地の山頂にあり、元禄四年と刻まれたお墓があった。後方部がバチ型に開いた、初期の古墳らしい。岡山の町の廻りには、五つの前方後方墳がある。

■うちの一番近所の神宮寺古墳、全長は 150m。御野小学校の横、奥まで歩いたのは初めて。凄く見晴らしのいい絶好地だよな。ぐるりと歩くと、北側の一段目には出っ張りがあるね。本を見ると、造出と考える人もいるとの事だが、ここだけでもトレンチ入れたいものだ！

■今日は小造山古墳、宮山墳丘墓へなど7つを訪問。天気もいいので、総社の宮山墳丘墓へ。自動車は造山に置いて、自転車。35年前に書いた「勾玉の首飾り」の主人公、吉備上道出身の尾代が下道に乗りこんで、加夜氏になって、総社の寺山古墳に葬られたとしたが、実はまだ行ってなかった。今日は登りましたよ。全長は 120m、周濠もあり、側には小さい前方後円墳もある。吉備路の真ん中にあるのに、全く知られてない。五重塔のすぐ南。北の工場地帯から行ったのですが、藪が深く、ラッセル無いと難しい。上がりませんでした。北の折敷山古墳という方墳を見てきましたよ。古墳めぐりは、足元が枯れ葉で滑るから、一步一步注意ですね。筍の引き抜いた跡とか、様々な危険がありますよね。何回か転んだ。(12/26)

### ■金蔵山古墳探訪 2020-1212

金蔵山古墳の近くに前期の方墳があるのを発掘報告書で知って再度自転車で訪問。少し前に岡嶋さんも56号墳に行ったというので、それも。

金蔵山も再度東側の造り出しを見に行った。ついでに笠井山にも登頂。自転車1時間、徒歩2時間。大分脚力もついてきた。

途中で岡嶋さんにも会ったし、金蔵山ですれ違って「2月にはまた掘るよ」と声かけてきたのは、あとから知り合いだと思出した。操山は手軽だ。まだまだ未発見の古墳はあるだろうな。

■考古学の世界は、道路や住宅開発の拡大に伴って急速に陣容を拡大させたが、多くは緊急発掘!

だから公共事業が半減したら、人員も激減。県のセンターも100人いたのが30人以下。もはや独力で発掘できるのは岡山県と岡山市だけ。だから僕は路面電車の次は古墳発掘の学術予算確保のロビー活動をやりたいんだよな。だから邪馬台国の本を書いた。古墳踏査は民間の仕事にするべきだな。「古墳を探そ

う隊」を結成しようか。和気会長で。

■30年前の小説でも、主人公の先祖の名前にもした「金蔵山」古墳、これまた近所なのに初訪問！車検が原尾島なので、自転車積んで、下まで。ついでに沢田大塚までは、回ると自転車でいけ、さらに金蔵山下まで行けるとわかった。

金蔵山には結構岩盤が露出していて、かなりには削る作業があったかも。特に括れ部付近はどうなのかな。副室と思われる部分、出土品は倉敷考古館にあるよな。

百間川遺跡の真上だから、弥生墳丘墓があってもいいよな。僕なら沢田大塚の北の低い丘に作るな！

■こんなに近くで、しかも僕は三敷学区で、中学時代には陸上部でマラソンしていたから、しばしば操山を走っていたのですが、とんと金蔵山は行ってない。本の上では出土物も知ってるし、倉敷考古館では十回も出土品を見ているのですがね。沢田からの道はほんとに金蔵山の下200mまで来ているのですね。入口まで自転車で侵入しましたよ。帰りは5分で麓まで走り降りた。

実は中学時代には操山169mの頂上まで自転車で上がって、乗ったまま降りた事がありますよ。ただ三敷神社からの下りは降りて歩いた所がある。玉井宮の階段を自転車で降りるなんてヤンチャしたこともあるが、今下手にヤルと死にますね。今度調査が始まったら、見に行きたいですね。よろしく。

■確か図面を持ってたよなと調べたら、なんと2019年報告書を持ってる。そういや、岡嶋さんから残部少々と聞いて、買いに行った。150分の1の模型をチャチャって作るかな。里山センターに寄付！埴輪は高さ3mm直径2mm、そうそう、爪楊枝の頭です、小さいのは。

#### ■浦間茶白山古墳探訪 2020-1206

今日のサイクリングは瀬戸の浦間茶白山古墳、なんとこれまた古墳の勉強始めて48年で初めて。実に現地は歩いてない。自宅なら18km約1時間。竹林をかなり刈り取ってるなあ。頑張ってる。こここそ、吉備津彦の墓だよな。全長138m、奈良の箸墓の同型半分サイズは有名。墳丘テッペンから新幹線が見える！車で行くと、駐車場に縛られて、古墳をぐるりと回ったり、ちょっと離れてどう見えるかがわかりにくい。自転車だとあぜ道に入って、周辺景観も見ることができる。また途中の道での様々な発見が面白い。

#### ■両宮山古墳探訪 2020-1128

コロナでなまった身体を鍛えるために、秋のサイクリング。先日は造山古墳往復したら足が痙攣して往生したので、今日はアクエリアス3本飲んだらどうにかなった。

自宅から約10kmの赤磐市の両宮山古墳、32年前に書いた古代史小説「勾玉の首飾り」の舞台なのだが、なんと一度も登っていなかった。自転車を置いて後円部にも行ったが、やはり刈りながらいく必要があった。早々に引き上げて、見学ルートから前方部に自転車で登ったが、木が多くて全然廻りが見えない。造山のような間伐が必要だね。周濠は補修されているが、丁度水がほとんどなく、きれいに元々の墳丘ラインが見えた。

続いて後円部の和田茶白山古墳、前方部の廻り山古墳、西盛山古墳をめぐり、さらに石棺が砕かれて放棄されている小山古墳。ここだけは来たことがある。石棺は九州凝灰岩で、千足と一緒にだ。最後は県立博物館に石棺のある朱千駄古墳。帰りに玉柏の津山線カーブで動画撮影して4時間半、約25kmというところか。



■折り畳みで車に積めますし、7段変速なんで、坂は登れますよ。マウンテンバイクみたいや性能もある。

自転車こいだ翌日は、階段上がるのか楽になるね。

運動てのは、楽しんでたら筋肉はつかないからね。電動という選択肢はまだないですね。

#### ■早稲田ミュージアムの埴輪の×印 2020-1122

この×印は「死者」という意味だろうな。古代中国では、胸に×印をつけるという。

岡という漢字は古墳という意味らしく、構えの中に×があり、下に山を入れて、横穴石室を表すのではないか。

出雲の銅剣の根元に×印があったり、あちこちにあるかも。

この早稲田ミュージアム本庄には、こんな埴輪が5つ以上あるんだね。

#### ■GoogleEarthの写真で遺跡めぐり 2020-1115

土木計画学会が今年はZoom会議になって、無料なので、参加して三日目。今日は「公共交通のプライシング」についてやってる最中。今週は4月から議論してきたコロナ後の公共交通提言の資料を作っているが、一方では古代史の方でも翻訳とGoogleEarthでの遺跡場所の確定を行っている。

そんななか、敦煌周辺を調べていて、瓜州の晋昌郡都の遺跡「鎖陽城」を発見した。きれいに残っている。

門などの構造もよくわかるし、角の望楼も残っている。座標は

40° 14'46.63"N 96° 12'14.64"E

■「資治通鑑」の翻訳、11月に入ってから、毎日原文に出てくる地名の現代地名探しに没頭している。104巻から110巻までの7巻を完了、合わせて編集方針の確認、漢字はどのレベルで使うのかなどを検討している。たとえば「臺」を使うか「台」を使うかなど決めていく。しかし文法や漢字というのは、あまり厳密にヤルと、仕事が膨大に増えて切りが無い。またあまり複雑な漢字は、印刷するときフォントが無いかもしれない。

古墳時代相当の西暦376年～500年にあたる、104巻～144巻をたとえば100部ずつ印刷して残しておくなどの検討を始める。A4で600ページにはなるものな。地図や年表も入れたいしなあ。あまり気が進まないが、クラウドファンディングしてもいいかもと。

<https://shijituganok.memo.wiki/>

一番置いて欲しいのは、大学の古代史・考古学関係の研究室だよな。一度通史で中国史を読んでおいて貰いたいと思う。シルクロードから中国、朝鮮、日本のダイナミックな連動を知るとは、とても大事なのではないかな。アマテラスやスサノオばかり論じていても、日本の古代史像は見えてこないよ。

#### ■資治通鑑のページに、試作中の年表を及び地図を掲載 2020-1105

<https://shijituganok.memo.wiki/d/%c3%cf%bf%de%a4%c8%7%af%9%bd%a4%ce%a5%da%a1%bc%a5%b8>

年表

資治通鑑の記事と三国史記の記事、日本書紀の記事を中心にして、中国から日本までの関連が分る年表を作成した。まだまだ制作途中だが公開する。

## 現代地名の確定の方法

古代中国の地名は、かなり現代までには変わっている。「洛陽」と「敦煌」くらいは変わってはいないが、ほとんどの町は変わっている。また漢以来「州・郡・県」という単位で構成されていたが、中華民国時代には「省・道・県」だったし、中華人民共和国時代になっても随分頻繁に変更があるようだ。現在は「省・地級市・県級市 or 県」という構成だ。

今回の資治通鑑翻訳では、戦前の翻訳の中華民国時代の地名をインターネット検索し、「〇〇道」のwikipediaのページから、「県」のページを探して、底にある現代地名を探した。さらに必要に応じて、中国語のホームページなども参照にした。

## Google Earth での場所確定

次に、上記で判明した地名を Google Earth で検索し、ポイントをマークして地名を入れ、次にその位置の座標入りのデータをパソコンに取り込んでいく。

■「資治通鑑」の翻訳 104 巻から 144 巻まで終わったが、出てくる地名が分からなくて、一つ一つ検索して、位置を調べ、それを Google Earth に 250 箇所落とし込んだ。ついでに地形などもチェックするが、あらためて中国大陸の巨大さ、人口の多さを実感する。また古代の地名で書き込むのだが、地名変化の多さ、人口の移動の激しさも感じる。随分と中国北方の民族は東西に動くものだと理解できる。

神武東征やヤマトタケルの征服話しも、いわばロールプレイングゲームみたいなもので、結構一過性の征服だったろうと推測できるが、そうした奴らはやはり中国北部で経験を積んで日本列島にやってきたと考えた方が、その移動を説明できそうだ。

380 年に北京で苻堅に対して反乱を起こした苻洛は、高句麗百濟新羅と休忍に援軍を求めたが、休忍は大和にいた忍熊皇子だとしたら、この時期のシルクロードの鄯善の王も休氏で、383 年には長安に来て援軍を求め、呂光が遠征に出かけている。その合間を縫って、西海にいた苻洛が脱出して倭国に来ているかも。おそらくは 384 年のことだろう。385 年には後燕が高句麗に勝って、慕容佐の高句麗好太王安を高句麗に送り込んでいる。この安が倭国に来た苻洛と戦うというのは、十分にあり得る話だ。地図づくりの次は年表づくりも進んでいる。(11/3)

## ■古墳自転車探訪開始 2020-1031

運動不足を解消するために、自転車で 14km.造山古墳まで。時間が遅いから、ぐるり回って、千足も下から見て、東からカメラで撮影。

帰りは峠超えるのがしんどそうだから、高松をまわり、一宮の「辛川小丸山古墳の確認!昔は 150m の前方後円墳とされていたがいまは、古墳じゃないと。

頂上には良寅神社があり、温羅の胴体がうまってるという。なんか 3 段築成に見えるが、形がいびつ。

細長い。下の看板でわ、調査して違うとか。だが温羅な、弥生墳丘墓はあるかも。

走行 35km.足が両方けいれんして、トイレで立てなくなった。

## ■グーグルマップで探す、朝鮮半島の古墳。2020-0927

今日は栄山江沿いだけで無、昔行った新羅の都・慶州の古墳群、中国と北朝鮮の国境の中国側の集安の高句麗古墳群も見てみた。さらに倭国に関係の深い楽浪郡の楽浪郡治の趾の「楽浪土城」も。

今回栄山江については、岡山大学出身の高田貫太さんの書いた「異形の古墳、朝鮮半島の前方後円墳」を参考にして、調べられた。朝鮮総督府時代の1917年測量の古地図を参考に、グーグルマップと照らし合わせて場所を探索。

もう一冊の「前方後円墳の源流、高句麗の前方後円形積石塚」全浩天著、は1991年の本で、丁度韓国の松鶴山古墳が前方後円墳かどうかで大いに話題になっていたころ、楯築や四隅突出墓、高松の岩清尾山古墳群、長野の積石塚はすべて高句麗の流れだと主張し、前方後円墳自体が高句麗に源流有りとするものだった。

この頃はまだインターネットが普及する前で、もちろんグーグルマップなんてないからねえ。想像するだけでみることは出来なかった。

いまやってる「資治通鑑」翻訳を今日はお休みして、じっくり探査。栄山江沿いの前方後円墳については、今や日韓両国の長い論争は収束している。すなわち「前方後円墳体制」なるものは、「大和朝廷の支配の象徴」といい、「厳密な序列で大きさや形式を統制していた」というのでは説明できないということ。ある種のファッションであって、様々な文物と同様に「採用された」のではないかと思う。あたかも「グッチのバック」のように。グッチのバックを持っているからって、イタリアに支配されたとはいわないものな。

#### ■韓国全羅南道の栄山江流域の前方後円墳 2020-0925

Google マップで探してみた。Zoom 会議で教えて貰った、スクリーンショットは手軽だね。

これらのほとんどは、海沿いか河川沿いにあり、百済との交易路、特に475年以降百済が南に逃げて扶余や泗比などに都を移したころの古墳。当然この頃は北九州との交流が大きい、吉備の牛窓の「吉備の海部直」などは船を操って行き来していただろうな。牛窓最後の双ツ塚とか築山古墳の時代かな。

#### ■タジキスタンのヴァン遺跡の位置 2020-0925

熊山遺跡と瓜2つと丸谷さんが指摘。

37° 00'16.85" N 72° 22'30.19" E

Google アースで見てください。

#### ■吉備の主要古墳の編年図 2020-0908

たぶん大学時代の1975年位に作成した、吉備の主要古墳の編年図。

なぜ1975年とわかるかという、楯築遺跡の発掘が1976年からで、この図では全長43mとなっていて、しかも西暦300年位に置いている。楯築遺跡は今は175年位かと言われる。

当時は古墳時代は300年位からで、今は250年前後と云われ出した。

また瀬戸の「玉井丸山古墳全長150m」と書かれていること。その後消えているが、当時はそう思われていた。辛川小丸山古墳150mなんてのもある。間壁さんとか西川さんの本や、様々調べて描いたはず。この図は文学部の「考古学特殊講義」のレポートとして講師の甘粕健さんに提出して、無事「優」をいただ

いたが、当時はまだみんなこんな表現していなかった。甘粕さんは1977年から新潟大学に赴任し、その後考古学会会長だったとは、「吉備邪馬台国東遷説」を書くまでは知らなかった。

さてこの図を描き直して、古墳グッズにしようと、「前方後円墳集成・中国四国」を取り出してきた。20000円もしたんだなあ。その後の修正を色々知りたところだ。両宮山古墳、金蔵山古墳などなど。

そうですね。僕の勉強始めたときには、弥生墳丘墓という概念がなくて、大学1年の授業で「ヒトデみたいな古墳みたいなのが山陰にある」といって説明してくれた、まだ四隅突出墓とは言っていなかった。そのころ「東アジアの古代を考える会」ができて、鈴木武樹なんて人が出てきて、邪馬台国論争が大変なことになって。その頃この雑誌に韓国の「三国史記」の翻訳が載り始め、続いて本が出て、ちゃんと買っている。

実は考古学は随分進んだけど、歴史学の方は停滞している感じがあるね。

### ■全国邪馬台国連絡協議会 2020-0612

実は、5月末から全国邪馬台国連絡協議会の副会長中四国支部長になりました。米子の田中文也さんの後を継ぎます。田中さんは会の創立に深く関わり、徐福伝説の実体化では僕に多大なる影響を及ぼした。で、田中さんがいらっしゃるから、僕の邪馬台国にも火がついて、昨年も古代三都物語にも大挙して来てくれました。

さて、田中さんがいるから、岡山勢はさぼっていて、僅かに3人、全国では400人だが中四国は30人ちょいなんで、昨年の三都物語を展開して、この際勢力拡大を計りたいと思います！

テーマは「邪馬台国遊園地！」メンドクサイ議論はともかく、日本全国邪馬台国！邪馬台国を楽しもうです。

で、先週末に KAYA の逢澤直子さんと古代史小説家の長緒鬼無里さんと zoom でわいわいガヤガヤ!! で、入会していただいて、吉備邪馬台国が特殊器台を讃岐、阿波、河内とひろげたように、仲間を繋げたい。

まずは近いうちに zoom 邪馬台国遊園地をやしましょう。facebook ページも作るかな。また皆さんにも入会をお願いします。今まで古代史関係では、会費制の会は作らなかったんですが、よろしくをお願いします！